

4. 鳥類調査結果

4. 鳥類

4.1 鳥類調査結果の概要

河川水辺の国勢調査の鳥類調査は、平成2年から17年までの1～3巡目調査では、間隔をあけて設定された複数の調査地区を観察するという定点調査法によって実施されてきましたが、平成18年度以降の4巡目調査から調査マニュアルが改訂され、河口から上流にいたる全調査区間を1kmピッチで連続的に観察するというスポット調査法で実施されるようになりました。これによって、河口から上流に至るまでの鳥類相を連続的に把握できるようになりました。

(1) 確認種

今回とりまとめを行った8水系13河川で確認された鳥類は、15目46科204種でした。確認種数の多かった河川は、北海道地方の網走川の107種、北陸地方の手取川の120種、九州地方の緑川の111種などでした。

(2) 重要種

今回とりまとめを行った13河川で確認された重要種は、レッドリスト絶滅危惧IA類に指定されているクロツラヘラサギ、レッドリスト絶滅危惧IB類に指定されているヒメウ、ツクシガモ、オジロワシ、チュウヒ等27種でした。重要種の確認された種数が多かった河川としては、北海道地方の網走川の13種、九州地方の緑川、北陸地方の手取川、四国地方の重信川の11種などでした。

(注) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- 環境省編「レッドリスト」掲載種(2006；鳥類)

(3) 国外外来種

今回とりまとめを行った13河川で確認された国外外来種は、シジュウカラガン大型亜種、コジュケイ、ドバト、ソウシチョウ、アヒルの5種でした。

(注) 国外外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、国外外来種の選定には、資料1.6(30～31ページ)および32ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。